

## 7 各学校における分析とその活用例について

### 1 子ども一人一人の「学力のレベルと学力の伸び」の可視化

各学校に配付されている「帳票40」には、以下のとおり前年度調査の学力のレベルとの比較により、「昨年度からの学力の伸び」が数値として示されている。

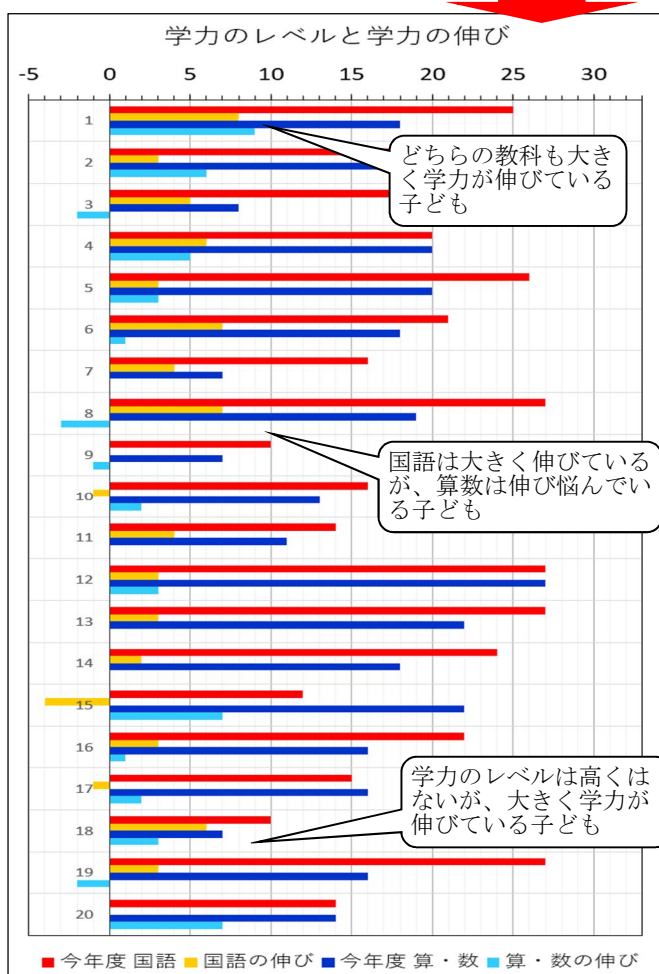
40 学校用		令和6年度ふくしま学力調査 (小学校6年生)		学力分析データ(学力のレベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別		〇〇立△△小学校																																					
<small>本帳票の「主体的・対話的で深い学びの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、10～5.0となっています。数値が高いほど、よい値となっています。 「昨年度からの学力の伸び」がマイナスの場合は、赤字で表記しています。</small>																																											
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">国語</th> <th colspan="2">算数・数学</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>昨年度からの学力の伸び</th> <th>RLレベル</th> <th>昨年度からの学力の伸び</th> <th>RLレベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学級平均</td> <td>8-B</td> <td></td> <td>8-B</td> <td>8-A</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学校平均</td> <td>8-B</td> <td>0</td> <td>8-B</td> <td>8-B</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>市町村平均</td> <td>7-B</td> <td>0</td> <td>7-B</td> <td>6-A</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>福島県平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										国語		算数・数学				昨年度からの学力の伸び	RLレベル	昨年度からの学力の伸び	RLレベル	学級平均	8-B		8-B	8-A		学校平均	8-B	0	8-B	8-B	5	市町村平均	7-B	0	7-B	6-A	1	福島県平均					
		国語		算数・数学																																							
		昨年度からの学力の伸び	RLレベル	昨年度からの学力の伸び	RLレベル																																						
学級平均	8-B		8-B	8-A																																							
学校平均	8-B	0	8-B	8-B	5																																						
市町村平均	7-B	0	7-B	6-A	1																																						
福島県平均																																											
年度	市町村教育委員会コード	市町村教育委員会名	学校コード	学校名	個人番号	R5在籍情報	R6在籍情報	福島県平均																																			
2024	01	〇〇〇教育委員会	070700000	〇〇〇立△△小学校	****421	5 1 - 1	****421 6 1 - 1	9-C 8 6-B 6-A 9 3-A																																			
2024	01	〇〇〇教育委員会	070700000	〇〇〇立△△小学校	****422	5 1 - 1	****422 6 1 - 1	7-B 3 6-B 8-B 6 6-B																																			
2024	01	〇〇〇教育委員会	070700000	〇〇〇立△△小学校	****423	5 1 - 1	****423 6 1 - 1	8-B 5 6-A 3-B -2 4-C																																			
2024	01	〇〇〇教育委員会	070700000	〇〇〇立△△小学校	****424	5 1 - 1	****424 6 1 - 1	7-B 6 5-B 7-B 5 5-A																																			
2024	01	〇〇〇教育委員会	070700000	〇〇〇立△△小学校	****425	5 1 - 1	****425 6 1 - 1	9-B 3 8-B 7-B 3 6-B																																			
2024	01	〇〇〇教育委員会	070700000	〇〇〇立△△小学校	****426	5 1 - 2	****426 6 1 - 2	7-A 7 5-B 6-A 1 6-B																																			
2024	01	〇〇〇教育委員会	070700000	〇〇〇立△△小学校	****427	5 1 - 1	****427 6 1 - 1	6-C 4 4-A 3-C 0 3-C																																			
2024	01	〇〇〇教育委員会	070700000	〇〇〇立△△小学校	****428	5 1 - 1	****428 6 1 - 1	9-A 7 7-B 7-C -3 8-C																																			
2024	01	〇〇〇教育委員会	070700000	〇〇〇立△△小学校	****429	5 1 - 1	****429 6 1 - 1	4-C 0 4-C 3-C -1 3-B																																			
2024	01	〇〇〇教育委員会	070700000	〇〇〇立△△小学校	****430	5 1 - 2	****430 6 1 - 2	6-C -1 6-B 5-C 2 4-B																																			

本調査の特徴の一つである「学力の伸び」から、子どもたちのどのような姿が見えてくるのか、数値だけでは見えにくいのではと考え、「学力のレベルと学力の伸び」を可視化する「グラフ化ツール」を作成し、県内すべての小・中学校、義務教育学校、県立特別支援学校小学部・中学部及び、市町村教育委員会へ配布し、「グラフ化ツール」の使い方及び活用事例についてオンライン説明会を実施した。

右のグラフは、「グラフ化ツール」によって作成された小学校6学年のグラフの例であり、子ども一人一人の国語と算数の「学力のレベル」と「昨年度からの学力の伸び」を表している。

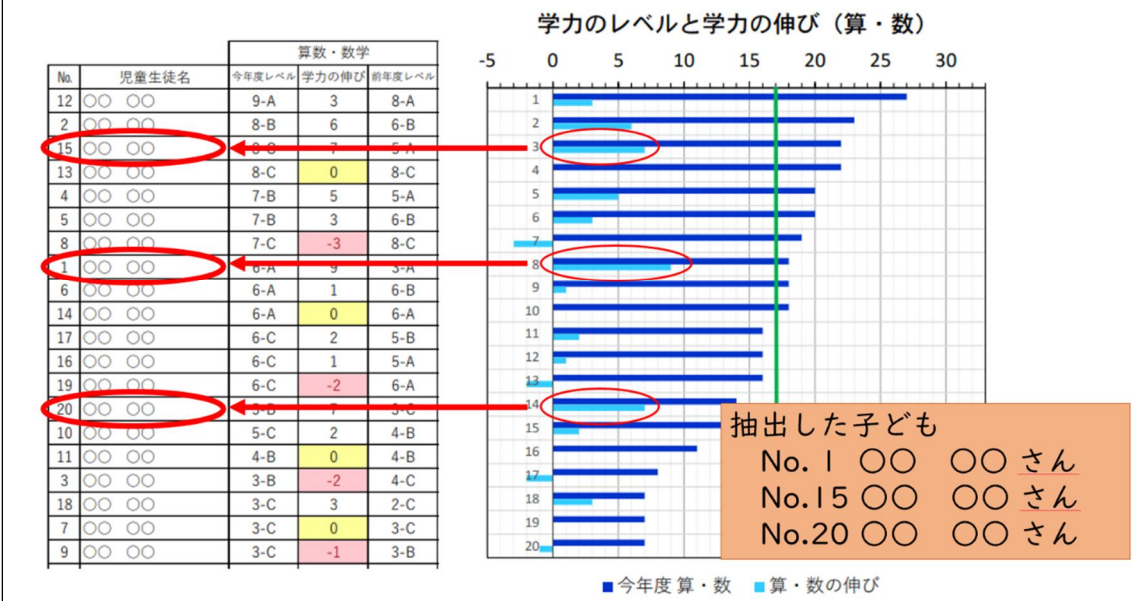
このグラフから、例えば、どちらの教科も大きく学力が伸びている子どもや、国語の学力は大きく伸びているが、算数は伸び悩んでいる子どもなど、子ども一人一人の「学力のレベル」と「昨年度からの学力の伸び」の状況が見えてくる。

グラフ化ツールでは、教科ごとの学力のレベルと学力の伸びを表示するグラフも作成することができる。



これらのグラフを基に、子ども一人一人に寄り添い、称賛したり、励ましたりすることはもちろんだが、これらの結果を授業改善に生かすことが大切である。単に結果を見て、学力の状況を把握するだけでなく、例えば、学力が大きく伸びている子どもを、校内研究授業における抽出対象とし、事後研究会で学習への取組状況等を共有したり、伸び悩んでいる子どもに対する個別支援の方法を検討したりすることが考えられる。他にも、子ども一人一人にどのような変容があったのかを、生徒指導の面から話し合うことも考えられる。

### 活用例Ⅰ：学力の伸びが大きかった児童生徒を抽出し、その要因について協議する



### 活用例Ⅰ：学力の伸びが大きかった児童生徒を抽出し、その要因について協議する

＜グループ協議＞  
 抽出した児童生徒の学力が伸びた諸要因について、  
 実践感覚から推測してみましょう。

- Aグループ No. 1 〇〇 〇〇 さん
- Bグループ No. 15 〇〇 〇〇 さん
- Cグループ No. 20 〇〇 〇〇 さん

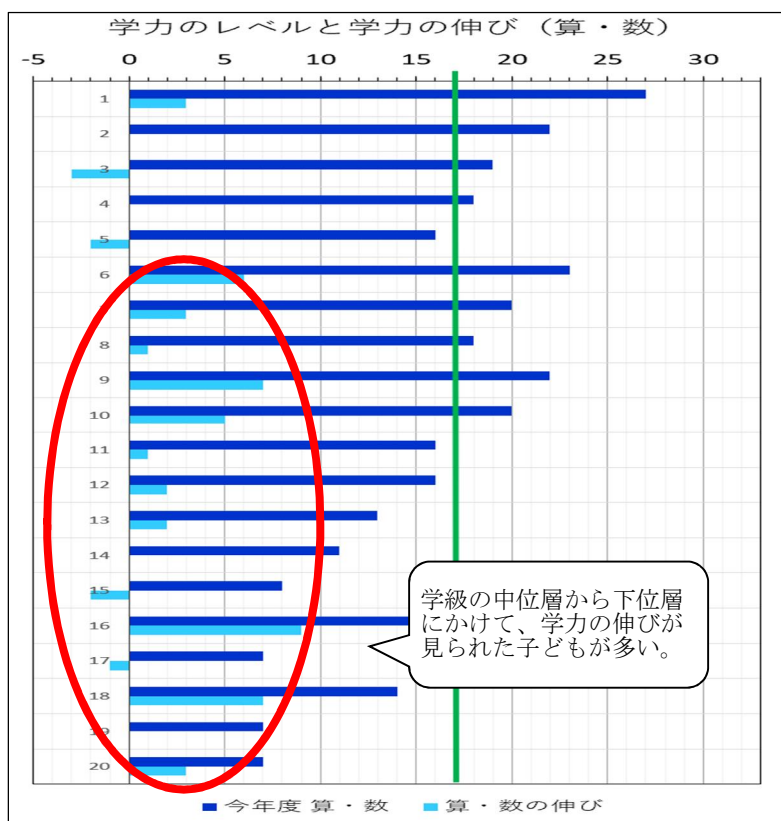
※グループで複数人を抽出して協議するパターンもあり



## 2 学級全体の学力の伸びの傾向を捉える

グラフ化ツールでは、教科ごとの学力のレベルと学力の伸びのグラフを、昨年度の学級で昨年度の学力のレベル順に並べ替えることもできる。このように並べ替えることで、昨年度の学級の学力の伸びの傾向を捉え、それを基に、指導の特長（よさ）について協議するという活用法も考えられる。

例えば、下のグラフでは、中位層から下位層にかけて、学力の伸びが見られた子どもが多いことが分かる。この学級を指導していた先生の取組を互見授業等により共有することで、学校全体の授業改善につなげていきたい。どのような指導が学力の伸びによい影響を与えているかを協議してその特徴（よさ）を明らかにし、それぞれの学級の実態に応じて、工夫しながらそれぞれの授業に取り入れていくことで、具体的な指導方法等の改善につなげられると考える。



## 活用例2：学級の学力の伸びの傾向から、指導の特長（よさ）について協議する

- ①学級の学力の伸びの傾向を捉える。
- ②学力を伸ばしている先生の授業を参観するなどして、指導の特長（よさ）について、全体で話し合う。
- ③明らかになった「よさ」を、学級の実態に応じて工夫しながらそれぞれの学級で取り入れる。

△△先生の学級は、下位層の子どもの多くが学力が大きく伸ばしていますね。

私は授業を構想する際には、～～ということに特に意識しています。また、授業中に発問するときには…

私の学級の実態を考えると、～～としてみるといいかも…

さらに、自校において、教科のどの領域、どの観点において強みや課題が見られるかについては、「帳票09」や「帳票28」から、学年全体や学級ごとの状況を把握することができる。さらには、必要に応じて「帳票01」から、子ども一人一人の採点結果を確認し、個別最適な学びにつなげることも大切である。



# 令和6年度 ふくしま学力調査



## 結果の返却・活用について



福島県教育委員会

### 1 個人結果票の返却・活用の流れ

**個人結果票**は、児童生徒一人一人の「**学力の伸び**」や**学習に関するアドバイス**を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。児童生徒一人一人の意欲を高め、学力を伸ばしていくことができるように、個人結果票の返却・活用の仕方についてポイントをまとめましたので御確認ください。

#### 返却前

- 各学校で保管している**個人番号シール票**をもとに、**個人結果票に組、出席番号、名前**を記入します。
- ※ この作業を間違えると、児童生徒に誤った結果が返却されることになります。間違いがないか十分に確認してください。

#### 児童生徒には

- 本調査の特長を伝えます。
  - ・ 一人一人の「**現在の学力のレベル**」や、「**学力の伸び**」が分かる調査です。
  - ※ 小学校4年生は、次年度に「**学力の伸び**」が分かります。
  - ・ **学力以外の力**（根気がある、やるべきことをきちんとやる、自分に自信がある等）と、「**学力の伸び**」との**関係が見え**、学力を伸ばすための手がかりが分かる調査です。
- 県の**平均点**や、**他の児童生徒と比較することよりも、自分の学力がどれだけ伸びているのかを知ることが重要である**ことを伝えます。
- 個人結果票の「**学習に関するアドバイス**」や「**教科の領域別正答率**」などを活用し、正答率の高い領域をさらに伸ばしたり正答率の低い領域を克服したりするための**アドバイスを**します。

#### 返却時

#### 保護者には

- **別紙「保護者用リーフレット」**を配布し、本調査の特長や個人結果票の活用について保護者に伝えます。
- 保護者会や三者面談、通知表の所見欄等を活用して、個人結果票から見える**児童生徒のよさや課題**を伝えます。
- 「**家庭学習スタンダード**」を参考にし、「**心の支え**」、「**環境づくり**」、「**習慣づくり**」の視点から家庭学習の充実について保護者に伝えます。

**国語** 教科に関する調査結果

今までの学力の変化 あなたの学力は、レベル10まで伸びました。

学年	レベル	今までの学力の変化			
		前年度	今年度	伸び幅	伸び率
高	レベル12				
	レベル11				
中	レベル10				
	レベル9				
低	レベル8				
	レベル7				

**学習に関するアドバイス**

あなたの国語の学力は、前年度1学期の学習により、大変大きく伸びています。自分の学習への取組に自信を持ち、上をさらに伸ばせよう。今秋も読書などの学習活動に積極的に取り組んでほしい。国語の学習は、自分の考えや感情を表現し、自分の考えを伝えることができるようになることが目的です。自分の考えや感情を表現し、自分の考えを伝えることができるようになることが目的です。自分の考えや感情を表現し、自分の考えを伝えることができるようになることが目的です。

**教科の領域別正答率**

学年	国語	算数	理科	社会
高	87.0	80.7	80.0	79.2
中	82.0	75.0	75.0	75.0
低	77.8	72.8	72.8	72.8

**全体の正答率分布**

## 2 個人結果票の見方と活用について

### (1) ふくしま学力調査における学力の捉え方について

本調査ではすべての問題に難易度が設定されており、「どのくらい難しい問題に正答できるか」で学力を捉えています。そのため、年度の異なる調査であっても同じ尺度で学力を測定し、児童生徒の学力の伸びを  
経年で捉えることができます。

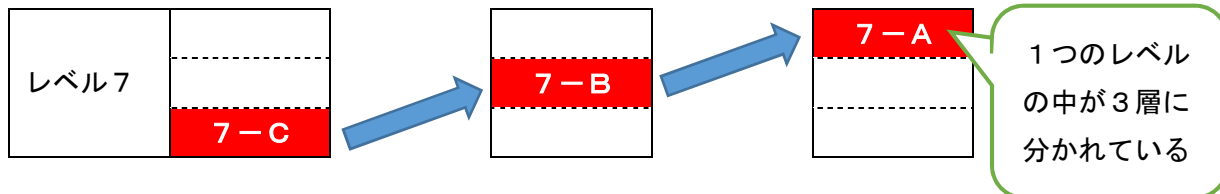
### (2) 学力のレベルについて

学力のレベル表記はレベル1からレベル11の11段階ありますが、測定は各学年7段階で行います。

学年	学力のレベル
小学校4年生	レベル1～レベル7
小学校5年生	レベル2～レベル8
小学校6年生	レベル3～レベル9

学年	学力のレベル
中学校1年生	レベル4～レベル10
中学校2年生	レベル5～レベル11

1つのレベルは、それぞれ3層に分かれており、同じレベルの中でも、スモールステップで「学力の伸び」が分かります。例えば、同じレベル7の中でも、学力のレベルが高くなると赤いバーの位置が上方に変わります。前学年でのバーの位置と、今回のバーの位置を比べると、学力の変化が分かります。



※ 「A」「B」「C」の表記は個人結果票では用いられません(バーの位置のみです)が、学校用の結果帳票で用いられるため、説明の便宜上記載しました。

### (3) 学習に関するアドバイスについて

学力調査の結果や学習習慣、領域別の今後の学習アドバイス等が記載されています。返却時や教育相談等の機会を捉え、児童生徒とつまずきや課題を共有しつつ、よいところを認め、児童生徒が学力を伸ばしていけるように働きかけてください。なお、「ふくしま活用力育成シート」や「定着確認シート」を児童生徒の実態に応じ、効果的に活用してください。

## 3 調査結果の帳票の活用について

個人結果票とともに学校に送付されたCD-ROMには、調査結果の帳票データが収録されています。これらの帳票により、児童生徒の学力のレベルや学力の伸び、学力以外の力等について把握したり、分析したりすることができます。特に御覧いただきたい帳票について紹介します。

### 帳票09 「教科に関する調査 問題ごとの正答率等一覧表」

各教科の領域ごとの正答率、設問ごとの正答率・無解答率や難易度について知ることができます。

### 帳票28 「各実施主体の調査結果票」

学年全体の学力レベルの変化や学力の伸びの状況等が教科ごとに、グラフの形でまとめられています。

### 帳票40 「学力分析データ(学力レベル・伸び・学習方略・非認知)児童生徒別」

一人一人の児童生徒の学力のレベル、学力の伸び、学習方略や非認知能力の変化等がわかります。

## 帳票09 「教科に関する調査 問題ごとの正答率等一覧表」

- 「教科の領域等」、「評価の観点」及び「問題形式」に分けて、学年毎、教科毎の正答率が確認できます。
- 設問別の正答率を「問題の概要」や「出題の趣旨」と照らし合わせることで、今後の教科指導における課題を明らかにできます。

令和6年度ふくしま学力調査(中学校2年生)

### 教科に関する調査 問題ごとの正答率等一覧表 [国語] 〇〇市立〇〇中学校

※ 数値は全てイメージです。

#### 集計結果

	学校数	児童生徒数	平均正答率	R5中1レベル(平均)	R6中2レベル(平均)	令和5年度からの同集団における学力の伸び(平均)
福島県	211	12,980	61.8	8-C	8-B	1
市町村教育委員会	12	1,234	61.9	8-C	8-B	1
貴校	1	87	62.2	7-A	8-B	2

令和5年度調査からの学力の伸びが記載されています。一人一人の学力の伸びについては、帳票40をご覧ください。

#### 分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率		
			福島県	市町村教育委員会	貴校
教科の領域等	言葉の特徴や使い方	12	60.7	61.2	61.4
	情報の扱い方、我が国の言語文化	5	77.2	79.9	76.2
	話すこと・聞くこと、書くこと	4	59.0	60.4	60.3
	読むこと	9	55.9	56.3	57.2
評価の観点	知識・技能	17	65.5	65.1	64.9
	思考・判断・表現	13	56.9	58.0	58.7
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-	-
問題形式	選択式	19	65.0	63.1	65.1
	短答式	10	56.6	55.3	56.8
	記述式	1	53.3	52.2	52.3

教科の領域等、評価の観点及び問題形式別の平均正答率をもとに、自校の教科指導における課題を明らかにし、授業改善に生かすことができます。

#### 問題別集計結果

困難度レベルは、およそ70%の確率で正答する学力レベル(三分割)に対応しています。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点			問題形式			福島県		市町村教育委員会		貴校		困難度レベル
			言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)	
1-1	漢字を読む(訓)	文脈に即して漢字を正しく読む	○				○			○			87.8	0.3	86.3	0.1	92.5	0.0	5-A
1-2	漢字を書く(音+音)	文脈に即して漢字を正しく書く	○				○			○			52.9	10.6	56.1	9.8	64.8	4.1	9-C
																			6-B
																			9-C
																			11-A

※ 数値は全てイメージです。

問題は非公開(経年変化を調査するため)なので、正答率の低かった問題をやり直すことはできませんが、問題の概要や出題の趣旨を参考に、類似の問題に取り組ませたり、出題の趣旨に近い学習活動を充実させたりすることができます。

正答率を分析する際には、設問毎に設定された「困難度レベル」を参考にすることもできます。1-C が最も易しく、11-A が最も困難なレベルになります。

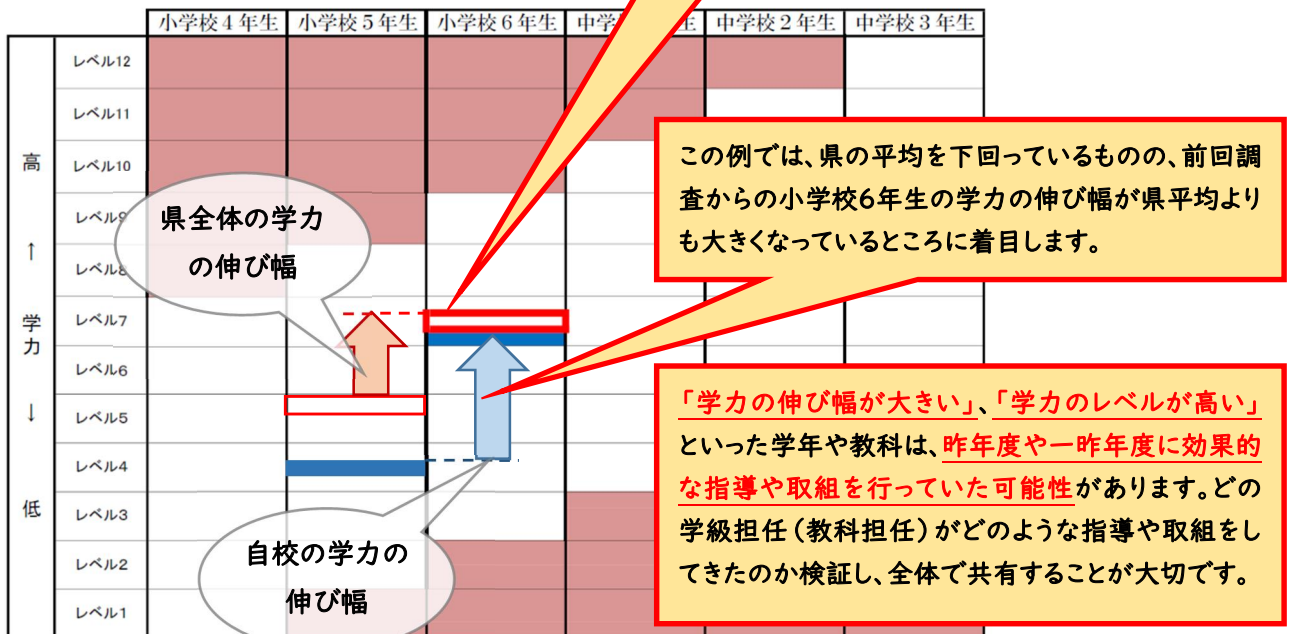
※ 設問ごとに難易度が異なるので、単純に「正答率が低い=課題」とは言えないことに注意が必要です。

## 帳票28 「各実施主体の調査結果票」

- 学年毎、教科毎の「学力のレベル」や「学力の伸び」の状況が確認できます。
- 学力のレベルや学力の伸び幅をエビデンス（根拠）とし、昨年度の学級担任（教科担任）の効果的な指導や取組を検証して全体で共有することができます。
- 「設問別正答率」、「教科の領域等別正答率」及び「県全体の正答率分布」から、県全体における相対的な位置を把握できます。

## 国語

### 今までの学力の変化



【昨年度の学級担任・教科担任】

【今年度の学級担任・教科担任】



自分の指導は、どのくらい子どもたちの学力を伸ばすことができたのだろう…。

昨年度とても頑張って学力を伸ばした子どもたちだと改めて分かった。もっと伸ばしてあげるために、どんなことができるだろう…。



【管理職】



6年生の学力の伸びが大きいな。5年生のときに担任だった〇〇先生の取組を聞き取って、好事例を共有し、先生方全員のスキルアップにつなげよう。

様々な立場から、ふくしま学力調査の結果データを分析することで、児童生徒の様々な姿が見えてきます。特に「成果（強み）」を見つけることを大切に、その要因を組織の「強み」として大切にしましょう。



学年の中で上位層のグラフの傾きが県のグラフより小さい  
⇒ 上位層をさらに伸ばす工夫が必要ではないか。



学年の中で中位層から下位層のグラフの傾きが県のグラフより大きい  
⇒ 中位層・下位層への効果的な指導や取組があったのではないか。

下位層に対して丁寧に支援した成果があったみたい。上位層の幅が広がってしまったようだけど、一人一人の状況はどうなっているだろう。帳票40で確認してみよう。



【昨年度の学級担任・教科担任】

### 教科部会や現職教育会などでの活用例

- 「学力の伸び」という共通の視点があるので、学級担任や教科担任だけでなく、様々な立場から話すことができます。
- 学力を大きく伸ばした先生、上位層を伸ばすのが得意な先生、下位層を伸ばすのが得意な先生などの取組事例を共有し、効果的な指導や取組を検証し、共通実践につなげることができます。
- 若手教員もベテラン教員も互いの意見を尊重し、学び合うことが大切です。

昨年度の学級担任です。実は2学期頃に…

先日保健室にAさんが来た時のことですが…



現在の教科担当から見ると、授業の対話の場面でAさんはいつも…

私の教科では、Aさんに発展的な課題を与えるときがあります。すると…

児童生徒の学力向上のために、授業改善が大切なことはもちろんですが、生徒指導や学級経営など、様々なことが関わっています。教員それぞれが持つ知見や児童生徒の見立て等を共有することで、学力向上につながる直接的、間接的の方策が見えてきます。学級担任、教科担任が一人で抱え込むのではなく、管理職のリーダーシップの下、学校の組織力を最大化し、チームとして対応することが大切です。



### 帳票40 「学力分析データ（学力レベル・伸び・学習方略・非認知）児童生徒別」

- 学級内の児童生徒別に、「学力のレベル」や「学力の伸び」の状況が確認できます。
- 「学習方略」や「非認知能力」に関する質問紙調査の結果及び経年変化について確認できます。

一人一人の児童生徒の学力について、R5調査とR6調査の経年変化（学力の伸び）がわかります。

本帳票の「主体的・対話的で深い学びの実施」「学習方略」「非認知能力」の数値の範囲は、1.0～5.0で、変化量はR5調査とR6調査の差になっています。

国語			算数・数学		
R6レベル	昨年度からの学力の伸び	R5レベル	R6レベル	昨年度からの学力の伸び	R5レベル
9-A	5	8-C	8-A	1	8-B
9-B	6	7-B	9-A	5	8-C
8-C	3	7-C	8-B	4	7-C
9-C	1	8-A	9-B	3	8-B
8-A	4	7-B	7-A	5	6-C
9-C	1	8-A	8-A	3	7-A

#### R5→R6(変化量)

主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略					非認知能力		
	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性	
0.0	1.8	1.5	2.3	1.3	1.0	0.5	0.2	
0.2	0.3	1.7	0.5	0.5	1.0	0.5	0.4	
1.1	1.0	0.8	0.3	1.3	0.5	0.1	0.9	
0.3	0.3	0.5	0.5	0.0	1.0	0.9	0.3	
0.7	0.3	0.5	0.3	0.3	1.3	0.2	0.5	
0.0	0.3	0.3	1.3	0.0	0.0	0.5	0.1	

一人一人の児童生徒の学習方略や非認知能力について、R5調査とR6調査の経年変化（どの項目がどのように変化したか）がわかります。

- ※ 学習方略や非認知能力のスコアは、個人内比較に用います。
- ※ 成長に伴い、自分に対して厳しく評価するようになる児童生徒もいます。スコアの上下だけで判断せず、複数の教員による日常の見取りも含めて成長を見ることが大切です。

#### 学習方略 ～ 「主体的・対話的で深い学び」が実現されていたか

- 柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方法を柔軟に変更していく活動
- プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
- 作業方略：ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動
- 認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
- 努力調整方略：「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動

#### 個票の返却 ～ 帳票40をエビデンス（根拠）にした指導

特に以下のような傾向がある児童生徒に対して…

- 学力が平均には届かないが伸びが見られる
- 学力が平均を超えているが伸びが見られない
- 学力が下がっている

学級担任としてどのような声かけ（指導）をすればよいか、面談前に学年会等で相談しておきましょう。その際、帳票40の「学習方略」や「非認知能力」の数値が参考になります。具体的なエビデンス（根拠）に基づく指導で、一人一人の児童生徒の学力向上を実現させましょう。

